

基本形は下記のhtmlです

<html>	: HTMLで記載
<head>	: ヘッ드의開始
<title></title>	: 文書名
</head>	: ヘッ드의終了
<body>	: 本体の開始
</body>	: 本体の終了
</html>	: HTML 終了

時々アプリの邪魔をすることがあるが、<!DOCTYPE html> が記述されていれば、HTML5 モードで表示します。従ってちゃんと動作しないアプリは、HTML5より前のモードで作られたのか？

1. <head>から</head>までは書式設定で、<title>から</title>はそのページを表示した場合にタブに表示される文字列であると共に、検索の対象になる部分です。
2. <body>から</body>が本文で、壁紙に例えば素材集からwallppr013.gifを選んだ場合には<body>内に注釈を入れ

`<body background="wallppr013.gif">`とします。

3. 2行2列の表を作ってみます

開始タグ<body>と終了タグ</body>の間に下記を記入します

各タグは開始と終了のセットになっており、命令が終わるときには必ず終了タグを入れます

```
<table border="1">
  <tr>
    <td></td>
    <td></td>
  </tr>
  <tr>
    <td></td>
    <td></td>
  </tr>
</table>
```

<table>は表を意味しており、border=" 1" は枠線を表示というオプションです

<tr>とは「table row」の略で行を示し、<tr>から</tr>内が表の行部分を指定するタグです。

<td>とは「table data」の略で列を示し、<tr>から</tr>内に<td>…</td>が2回入り、行内にセルが2個(2列)あることを表示しています。

全部で2行であることから、これを2回繰り返して入力されます

4. 表の中央揃えを実施します

<table…>~</table>の前後に<div align="center">とそれを閉じる</div>が追加します。

<div>とは、単体では特に意味を持たないタグですが、<div>で囲った部分をブロックレベル要素としてグループ化することができるタグです。

ここまでの操作でソースは下記のようにになります。

```
<html>
<head>
<title></title>
</head>
<body background="wallppr013.gif">
<div align="center">
<table border="1">
  <tr>
    <td></td>
    <td></td>
  </tr>
  <tr>
    <td></td>
    <td></td>
  </tr>
</table>
</div>
</body>
</html>
```

5. 表の幅を600pxに広げ、1行目1列目に文字を入力

<table>のオプションとして「width="600"」と入力し、1つ目の<td>に文字を入れる、例えば「アルストロメリアです！」

```
<table border="1">
<tr>
  <td></td>
  <td></td>
</tr>
<tr>
  <td></td>
  <td></td>
</tr>
</table>
```



```
<table border="1" width="600">
<tr>
  <td>アルストロメリアです！</td>
  <td></td>
</tr>
<tr>
  <td></td>
  <td></td>
</tr>
</table>
```

6. 文字列を左揃えにして、少し大きくする

<td>にオプション「align="left"」を追加し、<td>内の文字列の前後にとを追加

```
<td>アルストロメリアです！
</td>
```



```
<td align="left"><font size="+1">アルストロメリアです！
</font></td>
```

7. 2行目のセルを結合します

<td></td>を1つ削除し、<td>のオプション「colspan="2"」を追加する

```
<tr>
  <td></td>
  <td></td>
</tr>
```



```
<tr>
  <td colspan="2"></td>
</tr>
```

8. 2行目に写真を表示する

半角スペース「 」をに書き換える
imgはイメージで画像を表示させるためのタグで、srcはソースの場所、名前、サイズ等を指定します

```
<tr>
  <td colspan="2"></td>
</tr>
```



```
<tr>
  <td colspan="2"></td>
</tr>
```

名前を付けて保存し、Chromeで開くと下記のようになります



9. 表の1行2列目にBGMを入れる (HP勉強会7日目で説明済みの文字列を入力)

```
<tr>
  <td align="left"><font SIZE="+1">文字入力例です ! </font></td>
  <td></td>
</tr>
<tr>
  <td colspan="2"></td>
</tr>
```

半角スペースの前後で改行し、半角スペース「 」をBGMの命令と置き換えます。

```
<tr>
  <td align="left"><font SIZE="+1">文字入力例です ! </font></td>
  <td>
<audio id="audio" loop><source src="hanyu.mp3"></audio><font face="$ J S 明朝"
size="+2">♪
</font><font face="$ J S 明朝 "> 埴生の宿 <input type="button" value="演奏"
onclick="audio_play()">
<input type="button" value="停止" onclick="audio_pause()"></font>
<script type="text/javascript">
function audio_play() {audio.play();}
function audio_pause() {audio.pause();}</script>
</td>
</tr>
<tr>
  <td colspan="2"></td>
</tr>
```

これで完成ですが、バランスを考慮して1列目の幅を350pxにしました

下記が全ソースです

```
<html>
<head>
<title></title>
</head>
<body background="wallppr013.gif">
<div align="center">
<table border="1" width="600">
<tr>
<td align="left" width="350"><font size="+1">アルストロメリアです ! </font></td>
<td>
<audio id="audio" loop><source src="hanyu.mp3"></audio><font face="$ J S 明朝" size="+2">
♪
</font><font face="$ J S 明朝 "> 埴生の宿 <input type="button" value="演奏"
onclick="audio_play()">
<input type="button" value="停止" onclick="audio_pause()"></font>
<script type="text/javascript">
function audio_play() {audio.play();}
function audio_pause() {audio.pause();}</script>
</td>
</tr>
<tr>
<td colspan="2"></td></tr>
```

```
<tr>
</table>
</div>
</body>
</html>
```

写真をロールオーバーにしたい場合は

```

```

を

```

```

に変えます

今日の勉強会の後に下記の変更を実施しました

壁紙にwallppr013.gifを指定した結果、1行目の中も文字や「演奏」「停止」ボタンの裏も壁紙が見えます。

1行目の背景色に黄緑を指定し、文字色を青に変えてみました。下記の8行目と9行目を下記のように変えました。

```
<tr>
<td align="left" width="350"><font size="+1">アルストロメリアです！</font></td>
```



```
<tr bgcolor="#ccffcc">
<td align="left" width="400"><font size="+1" color="#0000ff"> アルストロメリアです！</font></td>
```

下記のような表示に変わります

アルストロメリアです！

♪ 殖生の宿 演奏 停止

